



学びの道

西諫早中学校 学校だより

校訓
躍動・責任・勤勉

校長 大嶋博之

受験生へのエール

どの高校を受験するかを書き込む「入学願書」は、近年のパソコンの時代にも関わらず、生徒自身が全て「手書き」で書き込むことになっています。ここに



「自分の未来は自分で切り開け」というメッセージを感じます。この志願状況の集計結果(長崎県公立高等学校志願状況)が公表されました。本校からは、十一の学校、二十六学科を第一志願として受験します。三月八日(水)、九日(木)まであとわずか。これまで努力を積み重ねてきた彼らです。自分で決めた道へ向かって、最後の仕上げと体調を整えて、万全の体制で受験することができるようサポートしていきたいと思えます。



年度の終わりに

本年度も、あと一ヶ月となりました。

下は、学校だよりの第一号に載せた記事です。

「なりたい自分のイメージを持つことが大切」と書いています。折に触れ、

話して聞かせ、授業や行事等で求めてきた事ではあるのですが、さて、自分はどうかと振り返っています。

古の言葉に、次があります。

『行年五十にして四十九年の非を知り、六十にして六十化す』 安岡正篤

この言葉は、「いくつになっても澁刺として維新してゆくことだ。」と続きます。過去の反省を改善・進化へつなげていく。日々に変化する世の中にあつて「現状維持は衰退につながる」とも言われます。

三年生は、卒業して次のステップへ。一・二年生は、それぞれ次の学年へ。その中で、五十一の非を知りて、自己改革を進めていきたいと思えます。



受験

(コラム 馬波抄)

高校受験は、中学受験経験者を除き、人生で最初の試練とも言えます。その試練に

- ・どのように覚悟し、準備したか。
- ・試練に立ち向かう友に対し、どのように関わったか。
- ・支えてくれた家族に、どんな言葉を返してきたか。

学力だけでなく、このような事の一つ一つが試されます。一人で立ち向かうよりみんなで力を合わせ、支え合っていくことに教育的価値を見出す者は、次のように言います。

「受験は団体戦だ。」

私もそう思う者の一人です。

【 主な行事予定 】

<3月>

- 1日(水)・・・スポーツ安全保険申込み ~2日
- 4日(土)・・・市中総体新人大会(陸上競技)
- 8日(水)・・・公立高校入試 ~9日
- 9日(木)・・・1・2年生球技大会
- 10日(金)・・・3年生球技大会
- 14日(火)・・・卒業式予行練習
- 15日(水)・・・卒業証書授与式
- 16日(木)・・・公立高校合格発表
- 17日(金)・・・学校保健委員会
私立高校二次試験
- 23日(木)・・・大掃除
- 24日(金)・・・修了式、離任式
- 27日(月)・・・部活動大掃除
- 28日(火)・・・新入生受付、物品販売



シリーズ
新学習指導要領 その八

「総則」(要領全体を貫くもの)

去る二月十四日、新学習指導要領(案)が
お披露目されました。文部科学省のホーム
ページからプリントアウトして、まず目を
引いたのが、「総則」の変更でした。
「総則」というのは、学習指導要領の最
初に書かれている部分で、改訂のねらいや
留意点などが記述されている部分のことを
指します。今回、その中に新しく「前文」
が記述され、次の条文が改めて記されてい
ました。

- 教育は、教育基本法第2条に掲げる次
の目標を達成するよう行われなければならない。
- 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求
める態度を養い、豊かな情操と道徳心を
培うとともに、健やかな身体を養うこと。
 - 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ば
し、創造性を培い、自主及び自律の精神
を養うとともに職業及び生活との関連を
重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
 - 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と
協力を重んずるとともに、公共の精神に
基づき、主体的に社会の形成に参画し、
その発展に寄与する態度を養うこと。
 - 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保
全に寄与する態度を養うこと。
 - 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくん
できた我が国と郷土を愛するとともに、
他国を尊重し、国際社会の平和と発展に
寄与する態度を養うこと。

今回の改訂に伴う新しい授業(学校)づ
くりは、この目標を再確認して進めましよ
うという担当者の気持ちが表示されているよ
うに感じました。

総則のポイントは、次のとおりです。

「これからの学校教育に求められること」

- 一人一人の生徒に次の力をつける
 - ・ 自分のよさや可能性を認識する。
 - ・ あらゆる他者を価値のある存在とし
て尊重する。
 - ・ 多様な人々と協働する。
 - ・ 様々な社会的変化を乗り越える。
 - ・ 豊かな人生を切り拓く。
 - ・ 持続可能な社会の創り手となる。
- よりよい社会を創るという理念を学校
と社会とが共有し、連携及び協働により
その実現を図っていく。

さて、ここまで記述したことは学習指
導要領という「全国版」の最低基準です。
これらのメッセージを受けて、

○本校が、諫早市(地域・故郷)の現状
をもとに、どのようにアレンジするか。

○学級担任等が、学年・学級の実態をも
とにどのようにアレンジするか。

○教科担任等が、個々の生徒の状態をも
とに、どのようにアレンジするか。

このようなことについて、受け身ではなく、
目の前にある実情に對峙して主体的に考え
ていかなければなりません。完全実施は、
平成三十三年度。東京オリンピックの次の
年です。夢をもって準備したいと思えます。

「地域の文化・歴史・人物」―西諫早中教育の視点から
「地域の方々の声」

本年度、嬉しいお言葉をたくさんいた
だきました。

午前九時を過ぎた頃でした。貴校正
門前の歩道を散歩していたら、対面歩
行して来た貴校の生徒と思はれる少年
が立ち止まって「お早うございます」
と丁寧な挨拶をしてくれました。私も
「お早う!とても礼儀正しいね」と挨
拶をしました。(お手紙にて)

車を運転していたとき、西中の部活
帰りの生徒を先に通したところ、渡り
終わった後にわざわざ振り返って礼を
してくれました。その礼儀正しい姿を
見てすごく嬉しかったです。仕事帰り
で疲れているときに、すごく癒やされ
ました。(お電話にて)

これからも、こんな言葉をいただける
学校、心と心が結ばれる学校にしてい
たいと思います。

【お知らせ】

二月一〇日に行いま
した合唱コンクールの
折り、体育館にブラン
ケット(膝掛け)の忘れ
物がありました。お心
当たりの方は、御連絡
ください。

(クリーム色と茶色のチェック柄です。)





西諫早中学校 学校だより

学びの道

校訓
躍動・責任・勤勉

校長 大嶋博之

贈る言葉

平成二十八年度の卒業に寄せて

この子たちはもしかすると本当に日本一かもしれない。そんな感覚をずっと持ち続けています。そんな自慢の生徒たちですから、全国の人たちに見てもらいたいという私の一存で、ねんりんピックへの全校生徒出場を決めました。体育大会の「威風堂々」は、『この生徒たちならやれる』という確信から、私自身が体育教師として生徒たちと積み重ねてきた最高のものを伝えたいという願いで行いました。合唱コンクール。今年も感動を抑えきれませんでした。生徒たちの凜とした挨拶には、その挨拶に見合う存在かどうかをいつも自分自身に問うていました。いつも一生懸命な生徒たち。幸せな毎日をありがとう。



今、世の中は、大きな変化の中にあると言われています。これが今後、人工知能の発達やグローバル化・高度情報化によって生活の仕方や仕事の仕方などがさらに大きく変わると予想されています。このような中、本日、卒業を迎えた生徒たちに、次の句を紹介します。

春風や

岡志いだきて丘に立つ

この句は、高浜虚子が、俳句会の未来を担う決意をしたときにつくったものと言われています。自分に「求められていること」と自分が「やりたいこと」の狭間に揺れた日々を抜けて、あえて困難な道を選んだ心境を表していると思います。

私は、生徒たちが始業式や終業式、生徒集会などで、原稿を手にせず、ステージに立つときの引き締まった表情を見るたびにこの句を思い浮かべます。そして、時に、「挨拶」一つに、その覚悟を感じる生徒もいます。この姿勢がある限り、どこに行っても大丈夫だと確信しています。

私たちの生き方が、
この街の未来です。

卒業して、様々な道を歩む生徒たちの未来に幸あらんことを心から祈念して、贈る言葉とします。



卒業式の日の思い出

(コラム 馬渡抄)

昭和五十五年三月、卒業式を終え、最後の学活を終えて花道を抜けた私は、校舎を見上げて思いました。

「もっとできたんじゃないか。」

不満はまったくなかったのですが、足りない…。そんな感覚が強くあったことを覚えていきます。

過ぎ去って分かるものがあります。過ぎ去ってからは遅いという教訓もその一つです。

この立場になって卒業する生徒たちを見送るたびに、どんな想いでいるのだろうと考えると同時に、過ぎてからは…と、気を引き締めています。

【 主な行事予定 】

- <3月>
 - 16日(木)…公立高校合格発表
 - 23日(木)…大掃除
 - 24日(金)…修了式、離任式
 - 27日(月)…部活動大掃除
 - 28日(火)…新入生受付、物品販売
- <4月>
 - 6日(木)…着任式、始業式(弁当)
 - 7日(金)…入学式(午後)(弁当)
 - 12日(水)…学年・学級育友会
 - 14日(金)…歓迎行事、遠足(弁当)
 - 25日(火)…育友会総会、部活動振興会総会
- <5月>
 - 21日(日)…体育大会(弁当) 予備日…23日(火)
- <6月>
 - 10日(土)~11日(日)、17日(土)…市中総体

《心に響いた言葉》『「生徒の生徒による日本一の学校」をつくり上げたい。』御答生徒会長の就任演説から

この言葉は、近藤会長に引き継がれるとともに、教職員にとって他校を参観する視点の一つとなっています。



フォトセレクション — 現三年生が卒業後に、西諫早中と関わり合う可能性の視点から —

スタート



〈約50年後〉
ねんりんピックに張り切って出場しよう！

〈28年後〉
被爆100周年を迎えます。「クスノキ」を歌っているかな？平和への祈りを続けましょう。



〈約50年後〉餅つきの会が続いていきますように。

〈?年後〉一芸を身につけて、講師として登壇したりして？



〈約20年後〉進路説明会に来ることになったら、我が子にブレッジャーを掛け過ぎないで…

〈約6年後〉本年度は教育実習生が3人来てくれました。先生になりたいときは、連絡をくださいね。



〈約5年後〉↑部活動にコーチとして関わり合うかも？

〈約20年後〉挨拶運動に保護者として立つことになったら「KAWARO」のカードを掲げよう！

〈約5年後〉保育実習が役立つ日が来たときは、西中校区に住みましょう！（諫早市は、消滅可能性都市ですから…）



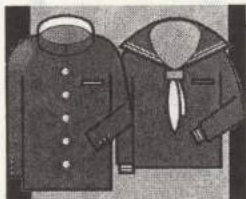
〈1年後〉来年度「卒業生に学ぶ会」実施の時は声をかけます。よろしく願います。

と歩で学やしば上後三
思も校母そますとでの年
い心校校してすとの人
ますでにををすか心の間
くにくををす。か礎生
れににををす。か礎生
た置置ををす。か礎生
らたついつら故郷祈な歩そ
らてま中郷念れむの

〈4年後〉↑東京オリンピック開催。今年の卒業生は18歳か19歳。その時どこにいるのでしょうか？30年後は、100周年記念行事開催！みんなで集まりましょう！



【お知らせ】
使わなくなった制服について
転入の時や急に身長が伸びたときなど、
買ったままに時間がないとか、今、買うには
もったいないというケース
があります。
そこで、制服をもう使わ
なくて、提供しても良いと
いう方がいらつしゃれば、
学校に届けてくださいます
ようお願いいたします。



「本校の生徒たち」

「諫早の文化・歴史・人物」— 西諫早中教育の視点から

本校の生徒たちは、地域（諫早市）や家族にとつて、希望の光です。勉強も体を鍛えることも、明るいさわやかな挨拶をすることも、生徒本人のためであるとともに、この地域の未来のためでもあります。その生徒たちは本年度、「日本一」を目指しました。

「日本一」の気概を
もって巣立つ彼らが、
周囲に光を放ちながら、
威風堂々と進む姿が目
に浮かびます。

一番に心を込めて
一番に相手を見て
一番に静止して
一番に明るく
一番に礼儀正しく
一番に大きな声で



学びの道

西諫早中学校 学校だより

校訓
躍動・責任・勤勉

校長 大嶋博之

生徒たちの姿を心に刻んで

春、山々の桜のつぼみが膨らみだす頃、思い浮かべる句があります。

敷島の大和心を人問わば

朝日におう 山桜花

本居宣長

西諫早中学校に来て、まず度肝を抜かれたのは生徒たちのワンストップ挨拶でした。井上会長への強い憧れによって受け継がれた御査会長の朝の挨拶は、近藤会長へと引き継がれています。私はこの挨拶に、山桜の香りを感じるのです。本年度の生徒たちは、紙面の都合で割愛させていただきましたが、大きな行事をたくさん行いました。朝の読書タイムの静けさ。授業や集会前の黙想。無言掃除。これらは、行事よりも価値のある積み重ねです。人権や同和など、人の生き方を考えた道徳の授業、知識や知恵を学んだ教科の授業。三百六十五日間積み重ねてきた平成二十八年度が終わります。次のステージへ向けて、この春休み、自分自身の目標を定め、しっかりと準備をして、病気やけがなどをしつかり治して、新年度、大きな花を咲かせてくれることを心から期待しています。



本年度の

転出・転入について

異動により次の方が異動になりました。それぞれの地で、御活躍を祈念します。また、転入される先生方にあつては、本校の生徒たちをよろしくお願いします。

《転出・退職》

- 大嶋校長→南島原市立南有馬中学校へ
- 松永先生→諫早市立森山中学校へ
- 田中先生→諫早市立北諫早中学校へ
- 竹下先生→諫早市立小野中学校へ
- 古川先生→諫早市立喜々津中学校へ
- 坂本先生→大村市立郡中学校へ
- 藤田 用務員 →退職
- 荒巻 学校給食補助員→退職
- 下見 学校給食補助員→退職
- 内川 育友会事務補助→退職

《転入・新規採用》

- 牟田校長→諫早市立飯盛中学校から
- 鶴岡先生→諫早市立飯盛中学校から
- 福田先生→佐世保市立愛宕中学校から
- 長嶋先生→大村市立萱瀬中学校から
- 三ヶ島 用務員 →新規採用
- 村山 特別支援補助員 →新規採用
- 高橋 学校給食補助員 →新規採用
- 宮田 学校給食補助員 →新規採用
- 加藤 育友会事務補助 →新規採用

【 主な行事予定 】

- <4月>
- 1日(土)…新年度スタート
- 6日(木)…着任式、始業式、(要弁当)
- 7日(金)…入学式(13:30 開式)(要弁当)
- 10日(月)…身体測定、自転車車検(2・3年生) 小学校入学式
- 11日(火)…交通安全教室、自転車車検(1年)
- 12日(水)…学年・学級育友会(2・3年生)
- 14日(金)…歓迎行事・遠足(要弁当)
- 18日(火)…全国学力・学習状況調査(3年生)、県学力調査(2年生)、NRT学力検査(1年生)
- 19日(水)…県学力調査(3年生)、NRT学力検査(2年生)
- 20日(木)…新入生部活動入部申込〆切
- 25日(火)…授業参観、育友会・部活動振興会総会

三度目の奇跡に

日本には、世界に誇る二つの奇跡があります。

明治維新と太平洋戦争からの復興

そして、三度目の奇跡の中で私達は時を同じくして生きています。

東日本大震災からの復興

維新は約二〇年、戦争からの復興は約一〇年で成し遂げたと言われます。それぞれ、政治や経済の好転をもってその達成を見たと言われます。しかし、報道に見る東北の街と人の暮らしは…。震災から六年。三度世界に誇ることになるであろうこの奇跡の達成に関わり続けたい。そう思っています。

《心に響いた言葉》「感動的な、本当に素晴らしい卒業式だったよ。」

卒業式に御出席いただいた来賓の方々の言葉から



シリーズ

新学習指導要領 最終回

「真の改革とは」

今回の学習指導要領改訂では、中学校の教科の枠組みや授業時数等の大きな変化は見られませんでしたが、しかし、社会や経済、人の暮らしなどが大きく変わる近い未来を生徒達が力強くしなやかに生き抜くために生徒も教師も「授業」というものの「観」を転換しなければなりません。

「他律的な、人から言われてする学習」から「主体的な学習」へ。「生徒が一言も発しない授業」から「対話的なキャッチボール型の実践」へ。「知識詰め込み」から「心に残る深い学び」へ。そんな『学びのベクトル』の大転換が求められています。つまり…

自己改革

自らを問い直し、未来の姿と、その未来に生きる生徒（生徒にとって自分）の姿をイメージして今日の授業を創る。

「自己改革が真の改革」そう感じています。



次年度へ

年度の終わりの学校だよりは、次年度へ向けた「構想」とか「目標」等の大枠をお示しし、読んでくださっている方々の御理解と御協力を期待して終わるのですが、本年度は叶いません。そこで今回は、「こんな授業ができたらいなと思っていた」として一文、残させていただきます。

本校はキャリア教育の研究を推進しているところですが、その目標を一言で言えば、「今やっている努力が未来につながっている」という確かな実感を持つ授業を創る」ということです。これは、生徒と教師の共同作業（師弟同行）の中に成り立ちます。

「今日の授業は、一次方程式だけでも、このグラフは、努力と成果の関係を確認する基礎になる。」



「今日の授業は、消化器系の仕組みだけでなく、看護師になりたいと言っあの生徒にとって大切な内容になる。（その子と目を合わせて君にとって一つのキャリアを獲得する授業になるよ。準備はいいかい。」

このような感じで教師と生徒が「未来を創る」という魂のベクトルを重ね合わせて行う授業。これが実現させたい授業でした。発表会は、平成三〇年一〇月二十六日です。期待しています。

最後に、先達の句を紹介して終わります。

身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも

留置まし大和魂

吉田松陰

「諫早の文化・歴史・人物」―西諫早中教育の視点から
「ある街の人」



校区内の交差点で、信号待ちをする私の車の左手前方に、道路脇の雑草を取り除かれていた年配の方の姿がありました。（上記写真）何の日でもない三月上旬の午後のことでした。誰も知れず、ただ街をきれいにしたいという心一つの行動だったと思います。

この方が中学生の時は、どんな学びをされていたのだろう。

子どもたちを育てるといふ職に携わる私は、「この人のようにになりたい」と感じる人に出会うたびにこう思います。卒業式で生徒達が残した答辞に「無言掃除を続けてほしい」という言葉がありました。五〇年先、彼らはきっとこの写真にある「ある人」のように、人知れず街をきれいにしていると確信しています。

【御礼】

今回の教職員異動の辞令により、西諫早中学校を去ることになりました。「威風堂々（組体操）」や「ねんりんピック」、「創立七〇周年記念行事」はもとより、日々の生徒達の姿、一生懸命な取組を目の当たりにしながらの幸せな二年間でした。保護者の皆さんや地域の方々への支えあつてのことと感謝いたします。

校長 大嶋博之